

平成 28 年度第 1 回金沢市総合教育会議

日時 平成 28 年 5 月 27 日（金）13:30～14:30

場所 金沢市役所 4 階 405 会議室

開会

（平嶋都市政策局長） ただ今より、平成 28 年度第 1 回金沢市総合教育会議を開催いたします。本日、事務局を担当いたします都市政策局の平嶋でございます。よろしくお願いいたします。本日は、山野市長、また野口教育長をはじめ、教育委員の皆さま全員にご出席いただいております。また、事務局側として都市政策局及び教育委員会事務局の担当部課長も出席しております。開会に当たりまして、山野市長より挨拶を頂きます。

1 市長挨拶

（山野市長） 本日はご多用のところお越しいただきましてありがとうございます。今回のテーマは、学校図書館のことを挙げていただいています。職員の皆さんはご存じかと思いますが、私は市長になる前の議員時代から金沢市立図書館や学校図書館に大変想いを持っていて、議員時代から何度も議会で問題提起させていただきました。どうしてかという、社会に出て大切なことはいろいろあると思います。もちろん、お金、経済力も大切でしょう。人脈も大切だと思います。学歴を含めた経歴も大切だと思いますが、一番大切なのは感性だと思っています。

その感性を磨くにはどうするかというと、素晴らしい絵画を見たり、音楽を聴いたり、一流アスリートのスポーツを見たり、また自分自身が直接それをするのも大切だと思いますが、最も身近なものは読書だと思っています。やはり一義的には親です。親が子供が小さいうちから読み聞かせをしたり、子供が手を伸ばせばすぐそこに本があるような環境をつくっていくのは、家庭だと思っています。その次は、子供たちが毎日通う学校の図書館だと思っています。

子供たちに読書をさせる場面も学校の授業であってもいいのかもしれませんが、学校の図書館は、できれば、子供たちの背中をそっと押して、そっと手を引いて、子供たちが読書に関心を持てるような環境をハード的にもソフト的にもつくっていくことが大切だと思っています。学校図書館に司書などの人がいることにより、温かみもあり、いろいろなサジェスションが出てくる中で子供たちが本に関心を持ってくれるのではないかという思いです。ずっと取り組んでまいりました。

最近、私は学校をよく訪問しますが、司書の方、また司書教諭の方、学校図書ボランティアの方にたくさん入っていただいて、いろいろな活動をしていただいていることが手に取るように分かります。ぜひ、この会議で司書の方、司書教諭の方、図書ボランティアの方、さらには学校の先生方が学校図書館を通して子供たちが感性を豊かにできるような方向に持っていけるような議論ができればと思っています。どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。ありがとうございました。

(平嶋都市政策局長) ありがとうございます。

2 金沢市総合教育会議運営規程の一部改正について

(平嶋都市政策局長) 次第に沿って会議を進めさせていただきます。まず、本会議の運営規程の一部改正について、事務局より説明させていただきます。

(久保企画調整課長) 資料番号1に基づき、金沢市総合教育会議運営規程(案)の改正についてご説明させていただきます。

今年度当初の機構改革により、総合教育会議の所管を総務局の総務課から都市政策局企画調整課に移管したことに伴い、第6条の「会議の事務局を総務局総務課に置き」としていたところを、「会議の事務局を市長の事務部局に置き」と改正させていただきたいと思っております。説明は以上となります。

(平嶋都市政策局長) 今後また機構改革によってその都度変わることのないように、市長の事務部局ということで統一させていただきたいと思います。この件に関して、今説明したとおり改正するということがよろしいでしょうか。

(一同) はい。

(平嶋都市政策局長) ありがとうございます。

3 今後の学校図書館及び学校図書のあり方について

(平嶋都市政策局長) 引き続き協議に移りたいと思います。本日は、先ほど市長の挨拶にございましたが、今後の学校図書館及び学校司書のあり方について協議をさせていただきます。まず、野口教育長から趣旨説明及び以降の進行についてもよろしくお願いいたします。

(野口教育長) これから本日の総合教育会議の協議に入らせていただきます。初めに、私から今ほどお話がありましたとおり趣旨説明をさせていただいた後、事務局から補足説明をさせていただきます。その後、意見交換を行いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度、この会議において、山野市長、そして教育委員の皆さまと3回にわたる協議の上、策定いたしました「金沢市教育行政大綱」については、本市の教育振興の両輪となる「金沢市学校教育振興基本計画」、また「金沢市生涯学習振興基本計画」を基本として、両計画の基本理念を踏まえた基本的な教育行政の施策の方針を定めたものです。

5つの基本方針がありますが、その1番目に「未来を担う人材の育成」を掲げています。変化の激しい社会をこれから児童生徒がたくましく生き抜くことができるように、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心を持つ、豊かな人間性

を育む教育」に取り組むことこそ、最も大切ではないかと考えています。

そこで、豊かな人間性を育む教育の具現的な取り組みの一つとして、「児童生徒の豊かな感性や情操を育む読書活動の拠点」である「学校図書館教育の推進」を掲げさせていただきました。

コンピューター、またインターネット等の情報通信手段は、高度情報化が進展する現代社会において、必要な情報を収集・判断・処理するツールとして不可欠ではありますが、児童生徒にとって読書はさまざまな分野の本を通して必要な情報を安全かつ容易に収集できるほか、主体的に本と向き合うことで豊かな感性や情操を育むことができる最も有効な手段であると考えています。

教育行政大綱のベースになっている「金沢市学校教育振興基本計画」において、学校図書館教育の推進は次のように示されています。

「学校図書館は児童生徒にとって一番身近な読書施設です。これからの学校図書館には、豊かな感性や情操を育む読書活動の拠点となること（読書センター）や、授業のねらいに沿った資料を準備し各教科等における学習指導を行うこと（学習センター）、情報活用能力の育成に関すること（情報センター）の3つの機能が期待され、学校図書館を計画的に利用し、活用することが求められています。

そのため、各学校の蔵書の充実を図るとともに、学校図書館司書による支援や市立図書館との協力体制を強化することにより、授業での学校図書館の活用を推進し、読書量の増加及び目的に応じた読書活動が充実するよう取り組みます」。このように記載されております。

この後、詳細な状況について事務局より説明がありますが、学校図書館の蔵書を増やすことはもとより、学校司書の新規配置と増員、学校図書館アドバイザーの配置と学校への派遣、学校図書ボランティアの登録など、学校現場への人的支援や施設整備も含めた学校図書館の環境整備、学校司書を活用した授業、学校図書館を活用した授業に積極的に取り組んでおります。

おかげさまで、図書の貸出冊数も、特に小学校では大幅に増えているという状況であります。しかしながら、現在の学校図書館や学校司書の状況には課題があると思っております。そこで本日は、未来を担う児童生徒のための学校図書館のあり方について、市長と教育委員の皆さまと意見交換や情報共有をさせていただきます。併せて、平成23年度より配置している学校司書については、児童生徒に読書の魅力や、本を使って調べ、学ぶこと等を教えていますが、学校図書館のさらなる活性化に向けて、専門的な知識や技能を有する学校司書のあり方についても同様に意見交換をしたいと考えております。

さまざまなご意見を頂戴したいと思っておりますが、時間も限られていることから、本日は、大きく三つの視点で議論を進めていきたいと思っております。一つ目は、「読書に対する児童生徒の変化」について、二つ目は、「学校司書の配置と人材育成」について、最後に、全体としての「今後の学校図書館のあり方」についてです。市長ならびに委員の皆さまの活発な発言をお願いし、趣旨説明を終わらせていただきます。

続いて事務局から補足説明をお願いいたします。

(川口学校職員課長) 資料番号2についてご説明させていただきます。

まず、学校司書等の配置や、これまでの成果、課題などについて説明いたします。「学校司書の配置状況」です。平成 23 年度から全小中学校への学校司書の配置を実施し、平成 23 年度は、21 名体制で 1 名当たり 3～5 校を担当いたしました。配置については、学校図書館教育推進モデル校であった 5 校には週 3 日、その他の学校については、学校の規模に応じて 15 校に週 2 日、60 校に週 1 日配置することといたしました。その後、順次増員し、平成 25 年度には 40 名体制とし、学校司書 1 名当たり 2 校を担当し、学校規模に応じて 1 校は週 3 日、もう 1 校は週 2 日配置する体制といたしました。その後は、学校数の減により、今年度は 39 名体制となっております。

また、今年度は、学校図書館アドバイザー兼学校司書を 1 名から 2 名に増員し、学校司書への支援等をこれまで以上に強化することで学校司書全体の資質向上を図ることとしております。なお、学校司書の任用期間については、1 年更新で 5 年間で 1 期間としておりますが、5 年経過後、あらためて選考した上で引き続き 5 年間任用できることとし、1 人の学校司書を最長 10 年間任用できることとしております。

次に、「学校図書館ボランティア登録者数」です。平成 27 年度は、小学校 55 校で 975 人、中学校 15 校で 150 人となっております。学校図書館内の整理や飾り付け、読み聞かせ、本の修理などを行っていただいております。

学校司書の研修については、これまでも月 1 回以上、年間 15 回程度の定例研修、全国図書館研究大会等への派遣などを実施してきておりますが、今年度からはこれらに加え、金沢ふるさと学習に関する研修会や、学校図書館司書教諭との合同研修会などを新たに開催し、さらなる学校司書の資質向上を図っていくこととしております。

主な課題としては、学校図書館の授業へのさらなる活用、学校司書と学校図書館司書教諭や学校図書館担当教諭との連携といった学校内における協力体制をより強化していくことが必要であると捉えています。

(西川学校指導課長) 金沢市小中学校図書館の主な成果等についてご説明させていただきます。

主な成果として、まず、「一人あたりの図書貸出冊数」では、平成 27 年度は小学校 76.3 冊、中学校 13.6 冊となっており、前年度を上回っております。「授業回数」においても、学校司書を活用した授業回数が前年度を上回っております。「学校図書館の環境整備」については、平成 26 年度から 3 年計画で図書ラベル更新事業を実施しており、作者を意識した読書ができるようにしております。「読書意欲を高める工夫」に幾つか例を挙げておりますが、各学校図書館においては、貸出人気図書ランキングや読書スタンプラリーなどを実施し、読書意欲を高める工夫を図っております。「蔵書冊数」については、平成 27 年度末で小学校は約 58 万 8000 冊、中学校が約 32 万 1000 冊となりました。第 8 次図書整備計画では、国の標準冊数に対して全小中学校で充足率 100%、小中学校全体で平均充足率 110%を目指しております。

学校図書館の環境整備状況や、学校司書の授業支援状況について、2 枚目の資料で説明いたします。資料の左側をご覧ください。学校図書館の環境整備状況です。上段左側は、木の香りのする学校図書館にリニューアルした湯涌小・芝原中の写真です。その右側は、泉中の学校図書館です。学校司書が学習資料を収集・整備し、情報センターとして活用し

ている様子の写真です。中段及び下段は、鞍月小の学校図書館の写真です。読書スペース及び学習スペースを確保するとともに、児童が自分で本を探せるように分かりやすい見出しを設置しております。

資料右側をご覧ください。学校司書の授業支援についてです。上段左側が城南中でのブックトークの様子、上段右側は三和小での調べ学習のサポートの様子、中段左側は夕日寺小での百科事典の使い方指導の様子、中段右側は泉中での参考文献の書き方等の指導支援の様子、下段左側は三和小での調べ学習用の資料を準備した様子、下段右側は米泉小の図書館オリエンテーションの様子の写真です。今後とも学校司書と学校図書館司書教諭が連携しながら、子供たちの読書活動が推進されるよう、学校図書館の充実に努めてまいります。以上でございます。

(野口教育長) 今の補足説明について何かご質問等がある方はいらっしゃいますか。特段よろしいでしょうか。これから協議を行ってまいります、その折々にでももしご質問等がありましたら適宜ご発言いただいで結構かと思ひます。よろしくお祈ひします。

読書に対する児童生徒の変化

(野口教育長) 1番目の論点である、「読書に対する児童生徒の変化」という視点で少し協議させていただこうと思ひます。市長も、教育委員の皆さんも、各学校訪問に行つていただいでおりますので、その折に司書の方からお伺ひしたことや実際目にしたことなどを踏まえながら議論していただければと思ひています。それでは、まず1点目の「読書に対する児童生徒の変化」という点について何かご意見のある方はござひませんか。

(小山委員) 今の世の中は、製本された書籍から電子書籍、あるいは新聞からネットニュースへという流れは、今後さらに加速度的に進んでいくことは明らかです、この流れに歯止めを掛けるのはまず無理なことではないかと思ひます。しかし、先ほど市長からもお話がありましたが、実際に書物に触れて、その本から伝わる作者の思い、あるいは製本された実際の本の価値、活字からの情報だけではなく、その現物を手にすることでの意味、それらのことを教える必要があるのではないかと思ひます。先ほどから司書のお話が出ていますが、それらを教育して子供たちに教えていくことが、司書の大きな役割の第一歩だと思ひます。

数日前の、テレビのバラエティークイズ番組での話ですが、ある図書館である取り組みをしたら、そこでの図書館の書籍貸出利用件数が倍増したということです。図書館から子供たちにどういふことをやったかといふと、ある通帳を与えたのです。それも読書通帳あるいは図書通帳という名前を付けていたましたが、実際、その通帳は本物の貯金通帳と同じ形です。流れから言ひますと、子供たちはその通帳を持って図書館に行きます。借りたい本や書籍があれば、その書籍に全部番号が付いていますから、ATM方式で機械に入力すると、それに日にち、書籍名、作者、そしてやはりこれが重要だと思ひますが、その書籍の定価、値段までが記録されるというものです。つまり、その通帳には書籍の履歴と共に、これまで読んだ合計金額まで累積されていくもので、これは面白いなと思ひ見入つていま

した。

その通帳を見ることによって、自分がこれまで読んできた本やその貨幣的な価値、あるいは自分が選んだ本の合計金額まで分かるというもので、読書内容がある意味で預金されていくことになり、子供たちは大変興味を持ち、図書館に通うようになり、その利用率が倍増したという話でした。実際、この通帳というものに自分の読書歴が残るのも非常にいいことだと思います。ある年数が経ってから、何歳のときにどういう本を読んだだろうと思いついて、もう1回借りて読んでみたら、また捉え方が違うかなとか、いろいろな思いでその通帳は利用できるのではないかと思います。

しかし、今日のお話は学校図書館ということなので、学校では維持管理コストの投資があり、通帳をすべての児童生徒に渡すのは不可能かもしれませんが、今後、スマホやいろいろなことを利用しても、その履歴をちゃんと残してあげることも必要だなと思います。そして、その書物の価値がトータル累計されて、あなたは幾らの価値の本を読んだのですよということも子供には非常にインパクトがあるという話題でしたので、僕は非常に興味を持って見ていました。金沢でももし取り入れられることがあれば、そういうものも一つかなということで、発言させていただきました。

(野口教育長) ありがとうございます。実際にこういう取り組みは金沢市内でありますか。

(西川学校指導課長) 通帳という形ではありませんが、学校で本を借りる際にはパソコンのシステムで、借りたり返したり履歴の処理をします。最後に子供の名前で検索すると、その子がこれまでどういう本を読んできたかという形で履歴を集約することができますので、それでどの子が何冊読んだかということで学校の方では担任から子供たち個々に応じた評価を返すという取り組みをしています。

(小山委員) 今ネット社会になって、情報がほとんど電子媒体になったとき、書物、書籍というものの価値を子供たちに教えることが、最初にも言ったように、司書の非常に大きな役割だと思うので、それならば逆に、定価が必要かどうか分かりませんが、それだけの価値があるものをあなたは1年間で読んだのですよと教えてあげることも非常にいい一つの取り組みになるのではないかと思います。

(野口教育長) ありがとうございます。子供たちが読書を進めていく動機付けや意欲付けにとってもいい方法だということですね。

他にこの件についてご意見のある方はいらっしゃいますか。

(早川委員) 今、小山委員がおっしゃったように、うちの娘も新聞はインターネットで読みます。新聞紙をごみに出すのが大変と言うのです。一人暮らしの故に、新聞紙をごみとして出していく手間を考えると大変なのでしょう。どこの新聞も一挙に読めて、社説なら社説だけ横に並べて比べるパソコンがあれば新聞は要らないと言っています。一方、ものすごく読書好きなのです。本は、新しいなら新しいなりの、また何人もの人が読んだら

読んだりの紙のにおいがすると言うのです。手が切れるような本、もうぼろぼろになっているような本など、それを手で取ったとき、すごく特別な思いがすると言います。現代っ子もなかなか捨てたもんじゃないな、新聞を取らなくても、五感を使って本を触る、嗅ぐという、面白い世代になったものだと思います。

子供のころから読書の習慣を付けてあげたいと思っていました。自分が小学生のときに通った図書館は、今でもどこに何があるか全部覚えています。好きだったものは何回も借りたので、「あそこのあの棚にあったな」みたいな。そのときに司書さんではないですが、そこにいらっしやった担当の先生が、「その本はこの前、何とか君が借りていった」と言うので、すごく気になって、その本を私も読まなきゃと感じた不思議な時代でした。今は個人情報を出してはいけないということで難しいかもしれませんね。ちょっとしたアドバイスや、この本は面白いとのアドバイスはいいなと思っていました。そんな中で、総合訪問で伺った学校の一つで、本の推薦をするという取り組みをしていました。私が読んだ本でこれが面白いよと。しかもイラスト入りなのです。今の生徒たちはイラストがお上手で、それを見ると映画のチラシみたいで、「ああ、読んでみたいな」と感じました。子供たちに自分が読んでよかったものを推薦させれば、少なくとも数冊は絶対に読みますよね。読まなければ推薦もできませんから。これは読書の数を増やす一つの手だてではないかと思いました。

もう一つ、本との出会いはいつでもいいということではないと私は思っています。小さいころに本に出会って、小さいころにどうしても読んでほしかった本があります。本を読むと、知らず知らずのうちに自分の意識を主人公の中に導入してしまいますよね。欲張っては駄目だなとか、譲る心や思いやりがなくて駄目とか、あまり得意になったらしゃべ返しが来るなど、そういうほんの小さなことを今でも覚えています。それは小さいときでないと駄目ではないかと思えます。小さいころには繊細な心があります。例えば『手袋を買いに』は今でも好きで何回も読みます。キツネの子供が手袋屋さんで、手を出すときに、今でも「そっちの手じゃない」というドキドキ感があります。もし子供のころにこの本に出会っていなかったら、今もこんなドキドキ感はないと思えます。

司書さんにお願ひがあります。子供たちと一緒に整理整頓をしたり、ポップを作ったりするなど、何か一緒にやってくてください。子供たちはすごく上手にポップを書きます。吹き出しみたいにして。

最後に、海外からのニュースを二つ紹介します。0歳児でも読み聞かせを楽しみ、とても良い影響があること。本の主人公のコスチュームを付けた人たちが学校を回って、「この本は面白いよ」という活動をしているヨーロッパの国々でも、なかなか読書数が増えないということです。

(野口教育長) ありがとうございます。お二人の委員から、一つ目の視点についてご意見を頂戴しましたが、その他に子供の変容という点で何かご意見がある方はいらっしやいますか。よろしいでしょうか。

私は個人的に学校に行くと、いつも学校図書館に入りますが、前と変わったなと思うのは、やはり新聞なんかもそうですね。きちんと子供たちが新聞を読むようになり、それを授業でもいろいろ活用している姿を見ると、とてもよかったなと思えます。配置してよか

ったなと思います。市長、図書館の活用や授業への活用という視点で何かご意見がございましたら。

(山野市長) 小山先生がおっしゃったことは、すごくいいと思います。テクニカルな課題はこれからあると思いますが、やはり動機付けを子供たちに持たせるのはすごく大事です。資料2の「読書意欲を高める工夫」にいろいろ書いてありますが、これはすごくいいと思っています。早川委員のおっしゃった、子供同士で、もしかすると先生お薦めの本を紹介したり、ポップなどもすごく大切だと思っています。僕は教育的な詳しいことは分かりませんが、恐らく、小学校の時期は読んだ本の内容も大事ですが、まずは量ではないかと思っています。僕らはその量を誘導する動機付けをハード的、ソフト的に工夫していくことが大切ではないかと思っています。この読書意欲を高める工夫や図書通帳などを予算やスペースを踏まえながらできるだけ整えていくことができればと思っています。

(野口教育長) ありがとうございます。

学校図書の配置と人材育成

(野口教育長) それでは、次の視点に入ってよろしいでしょうか。二つ目の視点は、学校司書の配置と人材育成になります。全ての学校に司書が入っておりますが、そうした点でもっともっと頑張ってもらいたい。もちろん頑張ってもらっていますが、さらに高みを目指していただければという思いもあるわけです。この視点で何かご意見がある委員はいらっしゃいますか。

(大島委員) 私は、保護者という立場から少し意見をお話しさせていただきたいと思います。まず、保護者の皆さんは、学校司書を増員していただいたりして、本当にありがたく思っております。ただ、今、人数も1名当たり2校ということで40名ぐらいになってきて継続していく中で、やはり学校司書の中でも、何というか、人間ですので、力量といいですか技量といいですか、そういうものにも若干の差が出てくることも考えられると思います。そのあたりは学校司書の研修実施や支援をしっかりと継続して、情報共有や研修をしていただきたいと思います。また、学校司書も一生懸命やっておりますので、何かしらの、定量的に何か分かるような評価をしてあげることモチベーションにつながっていいのではないかと思います。

もう1点、私は金沢市PTA協議会にも関わっておりまして、4~5年前に「読んでみまっし！」という事業をしました。保護者に対して、自分の子供にぜひ読ませたい本についてアンケートを採らせていただいて、冊子にしました。先日、金沢市PTA協議会の役員とお話しする機会があり、本年度、それを改定する機会を計画しているということでしたので、学校司書とも連携しながらそういったところを盛り上げて、市長も冒頭でお話しされたとおり、やはり親の役割が非常に重要だと思いますので、まず親から読書への関心や意識を醸成することが非常に重要になってくると思います。そのあたりをまたうまく連携させていただければと思います。

(野口教育長) ありがとうございます。大変大事なご意見であったと思いました。研修は先ほどもお話がありましたが、モチベーションにつなげるための評価という話も大事だと思います。それから、親がしっかり背中を見せるという、そういった部分で大変大事なご意見だったかと思います。ありがとうございます。

(岡委員) 学校を総合訪問させていただいていると、近年、どんどん図書館がきれいになっています。そして、資料2に写真が出ているように、見出しから本をすぐ探しやすい状況になりました。そして、今この本を読んだらいいですよということもきちんと提案されていると思うので、随分恵まれた環境になっているなと思っております。図書館の活用に力を入れておられるのだなと思っております。

学校司書は教育の先生方とはまた違ったことで採用されておられるわけで、1校1校、校長先生の下で、一緒に子供たちが健やかに育つようにという教育の一環として図書室を利用しておられるわけですが、ちょっとくくりが違うような話も聞きました。チーム一丸となって学校を良くするためにどのような協力体制を取っているのでしょうか。当然、各学校の先生方の指導を受けておられると思いますが、司書は司書としての一つのプライドというか見識を持っておられると思いますが、その辺の調整のことについてまたきちんと推し進めていただけるようにしていただければと感じました。

(野口教育長) 「チーム学校」という言葉があります。今の教育改革の中で出ている言葉です。この学校司書が「チーム学校」の一員として担っている役割は何かありますか。

(川口学校職員課長) 「チーム学校」は、これまで教員が携わってきた従来の業務を見直し、多様な専門スタッフを置き、専門性の高い人材を生かしながら学校全体で教育の質を高めていこうという発想ですので、今まででしたら、学校の先生が図書館の利用促進や図書館の活用方法について話をしていましたが、より専門性のある学校司書の方が子供たちにその部分を教えていくということで、子供にとっては今までより質の高い図書館の利用ができると考えています。

(山野市長) 司書の方が、多分、一般の職員会議には出ないと思いますが、読書や図書館などを議論するような職員会議に出たりすることはありますか。

(川口学校職員課長) 勤務時間の関係で、職員会議がある時間帯には勤務がないので通常の職員会議には司書の方は出席されませんが、年度当初の4月や夏休み中の職員会議等については、時間がある限り出席していただいています。

(西川学校指導課長) また、職員会議で具体的に提案等をするのは、学校図書館司書教諭で、担当者になりますので、担当者が原案等を作成する際には、学校司書と相談しながら現状にマッチしたものを提案するようになっております。

(野口教育長) これからまた秋口にかけて学校が蔵書を増やしていくということで、いろいろ図書の選定をしていかなければいけません、その折にも学校司書の方も関わっていただくということですね。

(西川学校指導課長) はい。

(野口教育長) 学校の中で司書の方に広く活躍いただいているということなのかと思っています。市長から、何か学校司書についてご意見などはありますか。

(山野市長) 僕は学校をよく訪問しますし、さっき言ったように、市長になる前の立場からずっとやってきましたから、そのような方たちといろいろな人脈もあります。ボランティアの方や、保護者の方ともお話ししますが、司書の方にこれ以上頑張れと言うのは、かわいそうだと思います。時間的に言っても、少し生々しいですがお金の面から言っても、今の環境の中でもう十分頑張ってくれていると思います。僕がいつも校長先生などに言うのが、司書の方たちを少なくとも言葉の上だけでもバックアップしてあげてほしいということです。校長先生がその人の給料を上げたりなどは簡単にできませんが、先生方も言葉の上で思い切りバックアップしてほしいとお願いしています。

すごく象徴的なのは、主な成果の「授業回数」です。1校当たり1カ月、平成27年は小学校は11.2回、中学校は6.2回と、なぜ半分なのかというと、恐らく小学校は原則、担任の先生が全ての科目を見ますが、中学校は教科ごとに先生が変わるからです。例えば、司書が週2〜3回行くとして、小学校のときは担任の先生と話ができれば、次に国語なり社会なりもできますが、中学校はその教科の先生と話をして、自分が出勤する日、時間にその教科の授業がきちんと当てはまればできますが、そうではないとできません。それをやるならばボランティアで来なさいということになって、今の勤務条件ではできないのです。先ほど質より量だと言いましたが、これを高めていくためには、根本的なことを議論し直さなければいけないと思います。司書の方たちは、すごく頑張ってくれていると思います。

(野口教育長) ありがとうございます。昨日も高岡中学校に行きましたが、学校司書の方と先生と一緒に授業を進めていらっしゃる場面に遭遇いたしまして、非常にいい関係でお仕事していただいているとあらためて感じました。今のご意見を大事にしながら、何か工夫させていただきたいと思います。

今後の学校図書のあり方

(野口教育長) では、3番目の視点に入ります。「今後の学校図書館のあり方」という視点になります。各学校の図書館は学校司書が入られる前と随分変わりましたが、さらに今後の学校図書館を充実するために、こういうことが考えられるなど、ご意見を頂戴できればと思います。この視点についてご意見のある方はいらっしゃいますか。

(田邊委員) 若干感想にもなりますが、自分自身の学校時代を振り返ってみると、従来

の学校図書室という学校建物の中で傍らに追いやられている、そこにある図書はちょっと古びた感じで、手を出しにくいイメージがとても強かったのですが、現在は、読書推進にすごく力が入れられて、学校図書の充実に力を注がれていて、この間の経緯はとても素晴らしいものがあります。

そういう環境そのものを重視するのがとても大事です。センターという言葉にもありますように、まさしく学校の中の中心にある、意識の上での中心にあるといいと思うので、そのあたりはハードの役割をあらためて考える必要があります。図書が置かれている場所は学校によって差があるので一概には言えないことがあります。子供たちが動線として行き交うような場所に図書があることが、環境としてとても大事なものだと思います。そういうものを可能な限り配慮していくような学校側の姿勢がとても大事だと思います。

その中でさらに司書が専門的な観点から役割を果たしていく、人の面でのサポート体制を今進めていただいておりますので、それが一層充実していくことが不可欠だと思います。授業の中での活用も工夫しながら、子供たち自身が読書に興味を持つ、そして自発的に、組織的に司書の方の力を活用しながら、子供たち自身が中心になって学校の図書環境を充実していくような、何かそういう子供たち自身の力を引き出していくようなことももっともっとあると、児童委員会という組織やその活かし方もあるでしょうし、子供たちが読書に興味を持って集まり、子供たちの力をさらにこにして学校の読書環境を充実させていくような、子供たちの自立的、自主的な力を伸ばすようなことを考えていくこともとても大事だと思っています。

一つのきっかけとしては、朝の10分間読書などいろいろな試みをされていますので、そういうことを積み重ねながら育てていく側面があるでしょうけれど、学校に入る前に家庭環境が持つ影響はとても大きいことは周知されていることですから、学校に就学するまでに育ててきた力を伸ばす環境を学校でも引き継いで一層高めていけるといいのかなと思います。子供の持つ力をしっかり引き出していき、学校の読書活動の中に位置付ける。そのような、司書の役割もさることながら、子供自身の力を引き出していくような働き掛けが必要だと思います。

他方で、読書の興味については、全国の学習状況調査などにも「読書は好きですか」という問いがあったりします。「好きだ」はかなり高まっていますが、家に帰って30分読書するかという質問に対する答えはぐっと減るのです。だから、学校の中で「好きだ」という興味・関心を、学校を離れても持てるような。本当に家庭環境はさまざまなので一様に言えないところがあると思いますが、読書は好きだけれども、一方で、本を手にして読むような時間がなかなか得られていない。それは社会環境もあるかもしれませんが、そうすると、やはり学校の中で、学校を離れても読書に目を向けるような仕掛けが必要でしょう。

先ほど小山委員がおっしゃったように、貯金通帳のようにしていくこともある種のゲーム感覚で、そういう試み、きっかけをつくるということになると思います。学校というのはいろいろな意味で時間の縛りがあるので簡単ではないかもしれませんが、例えば1日読書の日だとか、何か学校でイベント的に設けて、その中でいろいろな仕掛けを用意して、こんなことを本の中から探してみましようとか、こういうことは本ではどのように書いてあるのか探してみましようというような、学校の図書に目を向けるような活動の時間、学

校の中での時間づくりという工夫もすれば。学習センター、情報センターという機能をしっかり果たせるような学校の試みとしての仕掛け、そういう工夫についても、司書の先生方はいろいろな意味でレファレンスの力もありますので、そういうことをしっかりお手伝いいただきながら、学校の取り組みとしてできるような試みもあっていいと思います。学校司書の方もいろいろなモデル的な取り組みをされているところもあると思います。そういうことを共有できるような研修の機会もあるかと思いますが、今うまく機能している参考例を普及・浸透できるように、そういうことにぜひ取り組んでいただければと思います。

(野口教育長) ありがとうございます。子供の心に火を付けるということもよくいわれますが、それをどう保ち続けるかという行為がやはり大事なことです。そういったところに図書館の意味があるのではないかというお話もあったかと思います。

この件について、まだ他にご意見がある方はいらっしゃいますか。

(河野委員) 私は、特別な支援が必要な子供への図書サービスについてお話しさせていただきます。今、印刷物障害という、こなれていない日本語ですが、英語では print disabilities という、紙ベースの本等から情報を取りにくい障害を持つ人たちがいます。一番分かりやすいのは視覚障害の方ですが、実は肢体不自由の方たちも運動障害があつてめくれないということで、「めくってください」とお願いしてやっと本が読めます。だから、ある子は、「僕はこの本を読むために何百回と『お願いします』と言わないといけないんだ」と言ったりするわけです。それから、発達障害の中の学習障害です。トム・クルーズが有名ですが、トム・クルーズは紙ベースの台本を読むことがとてもつらいので、耳から全部聞いて覚えています。そういう子たちは確かにマイノリティではありますが、図書サービスを充実させるためには、その観点は必ず要ると思います。

ただ、先ほど市長も、司書はこれ以上頑張れないみたいなことをおっしゃっていましたが、川口課長は、「チーム学校」とは専門家も入れてやるものだとおっしゃってました。そうだとすると、例えば、金沢市の市立図書館には障害者サービスがきちんとありますので、そういう司書に、学校に巡回でもいいのでうまく入っていただくことで学校司書の資質も上がるでしょうし、そういうことを少しできたらいいなと思っています。障害者差別解消法が4月から施行されておりますので、合理的な配慮の提供の申請があったとき、過重な負担がないときは、断る、配慮を提供しない場合は法律違反になりますので、何らかの準備も必要ではないかと思います。以上です。

(野口教育長) ありがとうございます。学校司書だけではなく、市立図書館司書との連携で、さらにステップアップできるのではないかというご意見だったかと思います。

他にこの件についてご意見のある委員の方、いらっしゃいますか。

(早川委員) 河野委員に質問してもよろしいですか。資料2に「目や耳の不自由な人の役に立つ工夫」という写真があります。これを作ってくださった方は司書さんなのか、生徒たちなのか、ボランティアなのか分かりませんが、世の中にはいろいろな人がいて、ハ

ンディキャップを持つ子供たちと持たない子供たちが一緒に暮らしています。こういう工夫をしてある本もあるけれども、実際に読むときには、「ちょっと手伝ってあげるだけで楽に読める」ことを共有していくことは可能ですか。子供たちがハンディキャップを持つお友だちを手伝ってあげるのです。

ちょっとしたお手伝いが必要だということすら子供は分かっていないかもしれませんね。こういう工夫が世の中にできていると分かったら、おうちへ帰って家族に「こんな本があるんだよ」と話すことができます。話題を共有してほしいと思います。

(河野委員) そうですね。サポートをそんなに厳密に考える必要は全くなくて、ちょっと読んであげるとか、そういう程度でも十分有効だと思います。

(早川委員) それならできますよね。この写真を見て、お互いに助け合えたらいいかなと思いました。

(河野委員) そういうときに、一人一人違うという観点は非常に重要ですが、例えば、この資料の中の学習スペースは非常にオープンなスペースになっていますが、オープンなスペースが苦手な子がいるので、そんな場合には、選択肢で結構なので、選択肢としてちょっとしたコーナーがあるような、そういう多様性がある図書館があればいいなと思います。以上です。

(野口教育長) 他にございますか。よろしいでしょうか。

(山野市長) 今後の学校図書館ということですが、先ほど田邊委員が昔は端っこの方にとおっしゃっていました。僕が市長になって1年目か2年目に、港中学校の図書館を見ると、4階か5階のさらに上にプレハブみたいなものが建っていて、そこにあって、これはどういうことだと。幸い、校長先生、教頭先生が頑張って、教育委員会の皆さんにも工夫していただいて、1階に移りました。

僕は幾つか学校を回ったところ、二つか三つの小学校で4階にあったのです。1年生の教室は大体1階か2階にあるので、1年生に4階まで行くというのは辛いと思って、そこでも校長先生と司書の方を巻き込みました。その学校はすごく工夫していました。階段の途中に楽しそうな絵を描いたりして、1〜2年生を誘導できるような形になっていました。1階か2階にふさわしいスペースがないからこそ4階にあるのだと思いますが、場合によっては今の図書館よりも手狭になるかもしれないけれども、やはり1〜2階に持っていくことが可能ならば、物理的な問題さえクリアできればしてもいいのではないかという思いが1点です。

もう1点、図書館の隣に図書準備室等の部屋がよくあります。今は両方を有効に使っているところがほとんどですが、図書準備室は昔は単なる倉庫だったようです。そこもできれば構造上可能であれば、お金は掛かるかもしれませんが、壁を抜けないかと、校長先生から教育委員会に話してほしいということで、高岡中学校は相当抜けたと思います。全部は抜けていませんが、半分ぐらい抜けました。それで子供たちはすごく広いスペースで使

えるようになったと聞いています。可能であれば、一遍にできなくても計画的にやっていくことでスペース的な工夫をすることも今後大事なのではないかという思いがあります。

もう1点、ソフト的な話ですが、河野委員がおっしゃったのはそのとおりです。そこは恥ずかしながら僕も、恐らく司書の方も、河野先生のような専門家の方に指摘されて初めて気付くことがたくさんあると思います。専門家の視点から言われてみるとそのとおりなので、ぜひ司書の研修や現場に行っていていただいて、そのようなサジェスションをしていただければ、変わっていくのではないかと思います。特別な準備をせずにとおっしゃっていただいたので、特別な準備をせずにできるようなことはすぐにやるべきであると思います。司書の方なり学校の先生に気があれば、対応できることはたくさんあると思います。

(野口教育長) ありがとうございます。

私も先日、浅野川中学校に飛び込み訪問を行いましたら、図書館が狭くて、何とかしてほしいという意見がありましたので、今後も学校を回りながらいろいろな意見を吸い上げて、より良い学校図書館にすることができたらと考えています。今日は、市長、各教育委員からもたくさんの貴重なご意見を頂戴しました。このご意見を踏まえながら、今後、学校図書館がより良くなっていくよう、磨きを掛けてまいりたいと思います。それでは、司会の方をお返ししたいと思います。

閉会

(浦教育次長) 今ほど教育長からもありましたように、ハード、ソフト両面からの貴重なご意見や参考になるご意見を頂きました。今後の学校図書館の充実に向け、そういったものを参考にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。今日はありがとうございました。

(平嶋都市政策局長) 以上をもちまして、総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。